瓔海異聞

八

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

DK
18
.087
1807
RARE
No.8
1909407
ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

環海異聞巻之八

言語第二十三

天文

天ヲ、テンーホートヨルヲ上ヨリ下ル称ヲ俱舎ヲ天ヲテンーホーヲテンーホートイヒ地ヲチムフヲチムフ海ハオストロヲナオストトロトヨル深キヲ初メテソノ名ヲ知ルニハアツカヲ用ヒアツカトハ秤ヲノ類ヲ

日ソレザ　月メイセツ　星ヲウイツタ

雲オ、ホロカ　風ホコタ　雨ドーレ

上 武 立 図 書 館

雪ステイカ　雷ゴロン　氷リョー

天晴ルホゼンレヨ　天陰ルヲヨボロレカ　雨降ルカトイレヨウ　雨降ラスカトイレナイトン　電ボーホオコン　日出ソンザイジョウ

日入ソンザサカタヲ　北極セイウスウイスタ　寒ホーロッノ

暖ケブロー　暑ヤリコー　濡タモクロ

燥ソハヤ　火オコニ　焚クオコニトヒイ

火ヲ焚クナオコニ子ロトビイ　けむいデムナ　煙テム

宏カ来ルデム多クイレヨウ　赤道エクカトル　天度カラド

彼今ハセナ汝ラれハセイムラサガラドとふる

栂ヨ和蘭ろくハハガラドふなる

東ユイミタアツ　イルコーツカまて東風ラコントスト云
西サーハリノ　南ユーミヨー　北セイウエン
オセリワ　火オコ土上ニ云ツ
金ソーロトー　水ウラノイ大光ボタイ　銀セレブロ
鐵イレツノ　銅メイツナ　硫黄ミイラ
燧石ケレメン　鹽ツク　ムラノー　白石肥後白宮ともあり
イソウユースカ　石灰手別小記ス　白瑪瑙屬
モイラ石酸手別ニ記ス

諸國地名本國通稱

カタイツケヌキタイスコイ支那唐土

扨も魯西亜人は那を指してタイツケスキ
タイスコと云ふスコイは國の名を表はす
ものや彼人等國の名を表はすに和蘭新撰輿地
略記抔説曰ま那北支地キタイスカタイ
と云ふ古き韃靼の内の一國なりと云ふ
一書あり那此地を以て二郡となれる
ものを
北京　山西　陝西　河南　山東
ペキン　サンセー　センシー　ホンナン　サントン
四川
スーセン
の六部を指す事なるものをコンシン

地理

地盃（チサカヅキ）

又國北事ともいふ　日本國（ニツポンコク）　支那（シナ）ニテタイツケノコトヲ

和蘭（カランダ）　國（コク）ともいふ

新令御觸（コーロー）

元を新唐と為をかを街をまちをおくりをもを

イルコーツカもゴーロともいふベトルブルカハホロヨヨゴト

ロトをりを祝せりホロヨヨハ婦をり

美あり

山ーブカ林ーブカ山とはー砂ヒツカーカ

石 カーメン（カミン） 厠 オロロデ 橋 モース

橋ハ古橋石橋ともあり何ども柱を用ひる

注ありあるをもとり

墓 ナゴテ 井 コロゼツ 河 ライカアヌ（アイヒカ）

海 モーリヨ 湖 アナンソーリ 海水 モーツツ（ヲヲヲイ）

波 ボロン 港 カワニ（大光 カラニ） 鳴 オストロ

火災 ボヤツヅア（ヌホヤリヒ） ユ

隘（ミ） 穴ブラ 戯場 カメジ（ヒバイ）

称一化の諸部を統ふ
ニンニンとハ西部の人といふ事なり小人より東
人を倭称する語といつてよし一説にハニンニンハ支
人といふ事なり
ヒキタイスカタイハ漢土(法)なり、ヒキタイの契丹となる
キタイの音訳なるべし一契丹は元代を亦乃
中葉より幸に乃地乃ひ蕩 ※十六
州の地なるべく国号の文大遼もこれ北満
東陵西の南等の地なればいはゆる版図なりし
ゝ金元の二代絶えて無きを(金は女直
えびす)遼乃
時より大なりしとの六朝乃地なりて

國號なしイナされ
後世とまるを従前秦始皇と称其
世の秦の字の名称傳へ〳〵かく称ふ事ふる
とロイスミエスと云人の撰書中にまで〳〵多見成
事ふ此称ふる字と〳〵ふるかるが秦晋などの
此名字〳〵称ふる名あるへ〳〵と思ひ〳〵ふ
果〳〵此西洋陽名を又西域記に〳〵
もしイナと称ふる由〳〵ふ拘那羅延其
名訳するあを国〳〵厳ふよ称〳〵くい初の字ふ
此方にしナの名称傳へられ西北方より及〳〵後
こい彼諸国〳〵古事漢土の号にそ〳〵称〳〵
ふを〳〵ふ是ふ郡〳〵彼唐の代よりも

ゞ往来ゟ遣唐使ゟ云宮ともあり
祝盃ゟ取ぃ其ぃ事実元ゟ今の清酒、
てもゟ論ぃ——
——
ガラニッケ又ガラニヤ
ガラニッケ又ガラニヤ（ガラニヤ行者の字ゝ宛ス）
スウエ——ッケ
ハランソ——スケ
アンゲリ
ボルトガル
子イメツ

阿蘭陀（オランダ）
雪隠（スウエツヽア）
佛蘭察（フランツ）
漢人利亜（アンケリア）
波尓牡尼尓（ボルトガル）
入尓瑪泥亜（ヒルマニア）

トルカ
イスハン
タルタ

都児捨（トルクエ）
伊斯把（イスハニア）
韃靼（タルタ）而

元太史曰アミヤ――ツカの北よりある高地アンデ
レイスカルと云
テヨリノイモ――リヨ

黒海

繩冬の号湖水をつめるをもて三四月よりて秋七
月比をいつまで氷をくとぞ

時令

年 コヲ

一月 オゼン メイセツ

去年 ボロンウ セオ

盡 ゼン

晩 ウイナル

今日 ヨンヂニ

一ヒ日 ラレナヨトジ

今年 チヨオガア ゴヲ

一年 オヒシ コヲ

一時 オゼン チヤアス

夜 ノヲナ

日ノ半 ホロナイーナ ゼン

昨日 チヤラス

明後日 ボンテ ナフクラ

未年 ホヲトンテ ゴヲ

二年 トツ ゴヲ

半時 ボロウイナ チヤアス

朝 カートル

夜明 スウアタ

明日 サフクウ

今日 ンテウ

ALASKA HISTORICAL LIBRARY AND MUSEUM

春 ウイスノ　　夏 ライタ　　穐 オーセン

冬 ジー

十二月名

正月 イヌクリ ヌノクリ　一ヶ月 二十日ヶ三十日あるとき有

二月 ヘブクリ ヘツラリ　一ヶ月 二十八日の月と九日あるとき有

三月 ニルタ　四月 アフウイリ　五月 ニイ

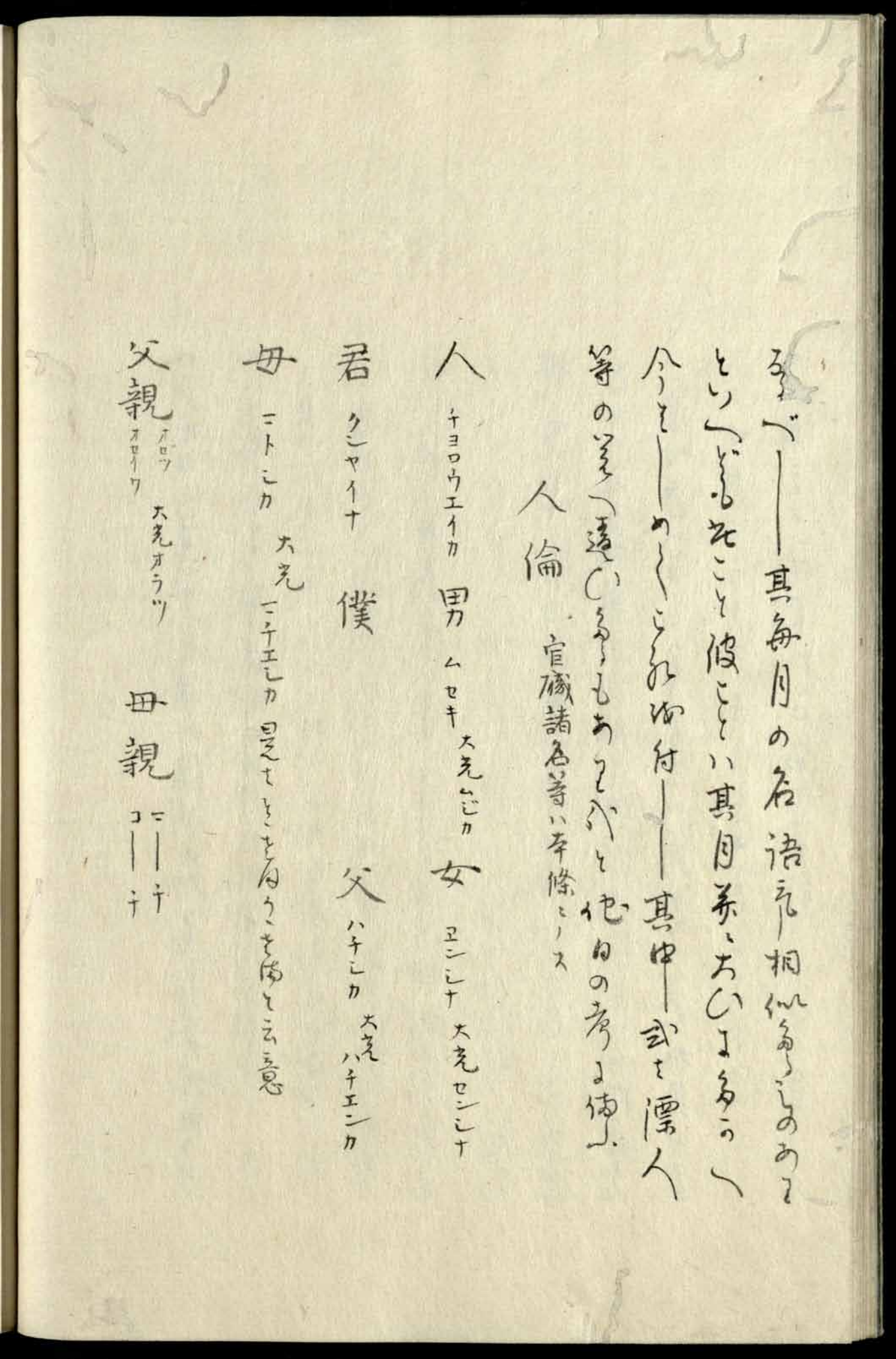
六月 イロヨヒ イヨノ　七月 イコリ　八月 アヲゴシ

九月 アシナヤブン　十月 アトモアノ月　十一月 ノヤゾン

十三日 しかうし

三月ようやくいさゝか此一日陽日る気がありて年
いよ十三七日あるとし冬至ころ七十めけ放おと閏月ふし
若士月ゆえれい七ヶ年めにあるとるこの正月い
るくい秋るめ十二月にあるとる（文化元年甲子十二
月十日る長湯旅宿中オロシイアのイスワノ正
月元日あるとき漂流の年れ唐い漂人等処持を
うぐる其後をうれありれば冬を採るー
如く旅ー〳〵唐ゆえめこの月十五夜るどて
ためー〳〵ふえ〳〵ー〳〵を鉢うて甲子ぬとー

九月七日と定めて若狭の津より入湯とて
あまた十三ヶ年の内一月ここに在ること
唐は彼国ふるくより処処の字を国分年おほくなり
年号とりかへなふく吉未の年数知れる年号の
こと詳ならや文化甲子十二月よりて乙丑冬とい彼唐暦一千八百四
ふるよ
扨と羅甸十二ヶ月の名正月ヤニュアレイ二月ニルデイス三
月マイウス四月ヨリウス五月セクスチリス六月イ
ムベル七月ヘブリアリウス八月アツフグル九月イコニ
ウス十月アラクス十一月ナウトヘル
ル自ディセムベル正名ヨリ称ふるの



すべて——其毎月の名語気相似寄るものあるといへどもそこと彼こといい其目差さおのおの多少——のくらべ付——其中——弐と深人等の差つ違いあるもあるべし他の考え倣

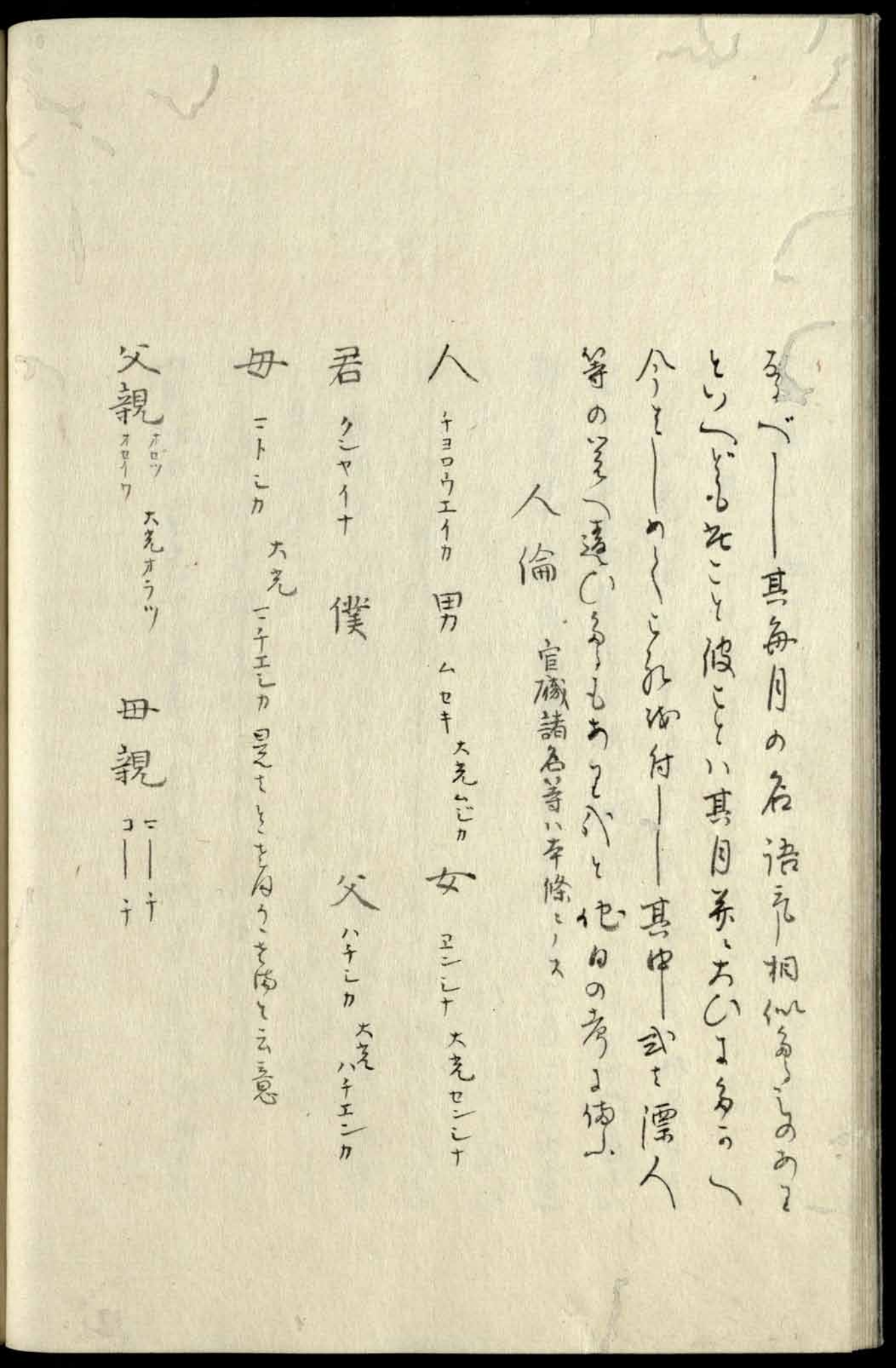
人倫　官職諸名等いま除こりス

人　チョウエイカ　男　ムセキ　大元ムゴカ　女　ユシナ　大元センシナ

君　クシャイナ　僕　父　ハチエカ　大元ハチエンカ

母　ニトシカ　大元　二千エンカ　是ともを母うと云意

父親　チロウ　大元オヤジ　母親　ニーコーチ



祖父 ヂャヂンカ
ボリ大ヂェイ
ブラーテ

祖母 バブヂカ　兄 ブランツ 大兄

妹 セストラ
ゆるがいゼイフカとゑ

芳 ブラー 大兄 ニーリンフ フラーテ　姉 セストラザ

娘 ドーテ 子の女の子 ふると他の娘

伯父 ヂャヂョンカ　伯母 テヨラトンカ

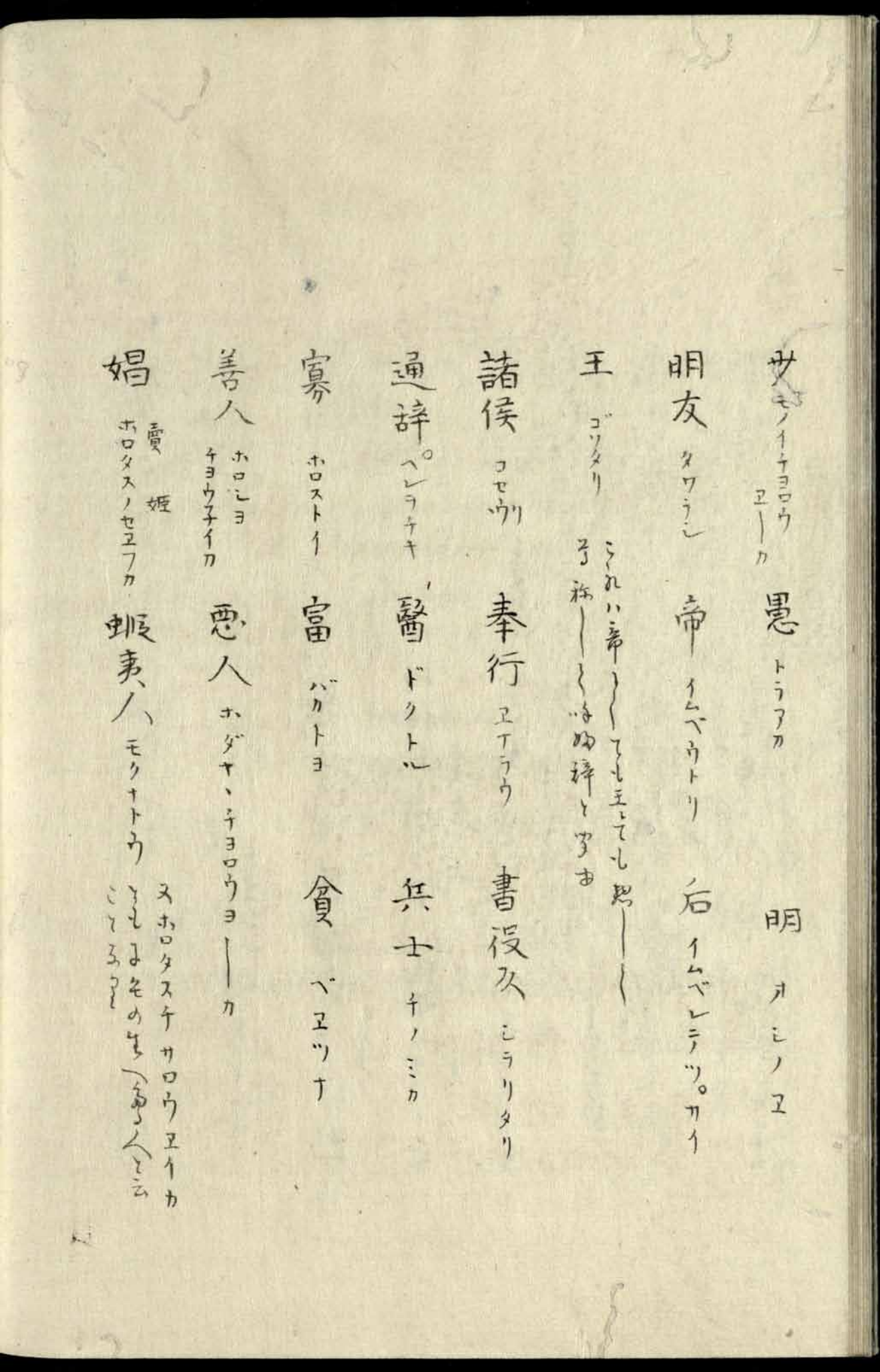
妻 セヨナ、ユナい 人の妻 ゆるがいクヂャイカとゑ 某の内室と
ゑよ後ろて

夫 ムウン

姪女姪 オロンヤ 又孔を孰孰

孕婦 ベンホラタ

産婦 オロセル　老 スタラテヨヤウ ヨーカ


世 モノイチヨウ ユーカ
愚 トラアカ
明 オシノユ
明友 タワラシ
帝 イムベウトリ
后 イムベレテツ。カイ
王 コツタリ
これい帝ーーてもエてもお
子称ーーくはゆ称と字ゆ
諸侯 コセウリ
奉行 ユテラウ
書役久 ニラリタリ
通辞 ペレラテキ
醫 ドクトル
兵士 チノミカ
寡 ホロストイ
富 バカトヨ
貪 ベユツナ
善人 ホロシヨ チヨウチイカ
悪人 ホダヤ、チヨロウヨーーカ
愛 姫 ホロタスノセユフカ
娼
蛾夷人 モクナトウ
又ホロタステサロウユイカ
もしそのもの多人と云
こてふ

乳脚　コレヤコ

手習師匠　オテイテ

商人　ユベーツ

馬士　ユミヒキ　ウマヒキ　クチトリ

師　オテイテレ

歩卒　サウノ

使節　ボスラニシカ

美男　カラシイア・美女　カラサイツザ　眼鼻髪ノ黒ヒ好男子　チリフゴウ

癈人　ホルメ　不具ホリノ

乞児　ケレスタラン　ボースル　モノモライ

仕立屋　ボロツノエ

手習子

木通　大工

商船　舟子　モーソヨコソ

官船　舟夫　ストロニン

町人　メレニン

酒風漢　ヒヤニンヤ

石通　カーメンレキ

大和尚　アンヘライ

鋸治　コハンナイデ

盲 スロボーイ

庖人 ホーワク ニヤキスル人

頭 ユノク

口 ローハ

胸 ドンヤ

足 ノーケ

面 レッガ

乳 ッーハ

乳汁 モロエ

聾 コロホイ

船師 カベタン

身體

眼 ガサア

鼻 ノース

腹 ベレホ

皮 コーレヤ

尻 グトハ

舌 エッキ

腰 レベナ

跛 ホカホイ テンハ

水主 ニトロス

耳 オホー

髪 オーロス

手 ホルカ オロケ フローケ

骨 コーレテ

歯 ッーベイ

乳 ラーテカ

陰莖 ボイ

脇 ボーブー
陰門 ヒツタ
指 ビョーースト
瞼 ボルク
血 コロフ
小使 シャーシ
汐濱 ソビャーカ（ハトヒル）

君処宮室

家 ドーマ
庖厨 シモミア（タイドコロ）
坐敷 コーリンス
戸 ジュウエル

陰嚢 ムーーゼイ
往水 ルーハイーシカ
肉 ノヤス
肝 セイレツ（キモ）
大使 カラジ
放屁 ベリトーワ
閨房 コロワシ 同床
窓戸 スタリン

血液 ベリカ
児女小戸 マシカ
膳 オクチナ
臓物 ケシイイ（ハラワタ）
發汗 スホゼル
屁 ヒヨリノイ
毛 セイルツ

窓障子 オコシカ
壁 ハテナ
柱窓 トロハ
掛屋 オストロカ
門 オロク
酒店 カバカ
サコ
旗 フラク

器財

發貢 ホーシカ
銭 トツボーロ

硝子
障子 ステタロオコシカ
砌 ナツサリノカシ
遷処 カラリンカ
倉廩 アシバル
席 ホスティー
民家 テンシアニ
尼寺 ニノステライー

柱 ストバ
階 ソーンニンザ
垣 ガブロートー
浴室
魚市
寺 セレコレ

火炮 オレヒキヤ
鋸 ビライ

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

艙刀 イシンガ　　剃刀ベレック　　鞍 セッロイ

セッワーいるの皆よりせんくの海よりおっくく為鮫の甲る
がるをみセッケカとえいう為ゆつけ猛とるの皆よ仕かけ
るとものなる

帆 パロス　　舵 ロウク

碇 ヤーコレ　　商船 ソーツナ、ソーツ子、

官船 ナデンタ　　脚船 大中小あり

艣 オジシ　ニシタ

縄 個 カナーース

軍艦 カラッレ

大い名高多多とる後美る個とつるの中ゆこロブ
カとえ陸へ人あり時自由小ゆヤーしきとえてこ波
あるを想くおを、自由

水車 カゲルニ 風屋 メチコンガ　　車 道中自由いキビック市くく 自由いハコレイト

雪車（ソリ）サニギ（リンケイ）

黒汁 チリニテ

〃〃 修ル

字 ビン

圖 カクタ

書冊 キンイカ

笛ドードテカ

吹〃男御オコス 羽ドーテカトエトテいかなるとこ糸巻（ガンキ）の形

琴 ゴーレテ 図あり

徐 チーツケ

包袱 ボートーカ（フロシキ）

紙 ビシナニカ

卯 ヒツセ 眼の晶

胡弓 ケレブロ 図あり

枕 ホトシカ皮松い筒（ヒト）のめこみ

綿 ブニカ

太鞁 バラバチ

蒲團 オシアラ

帽笠 ヒラツハ

三角帽（テンカロツ） ヒラツハ

杖心 ウカ

輕躁の人が用ゐ猿拔（スカミヤ）

机案 食盤（ストウ）

椅子 ストリヤ

箱 チーレキスンドーカ 着物の入れ物

眼鏡 オツチケ

鏡 セリカラ

時斗 チヤスウ

法馬（ホウバ） ベナメン　　鈴（スズ） コロ、ウツ　　鎖（クサリ） カミーカ

鍵（カギ） ケルーテ　　火バシ（ヒバシ） ヒゼイ　　燧（ヒウチ） オコニワ

牙枝（ヨウジ） 名ふるそ多のまそしのそこそのみのなを多ふこそのもと物と和まし〳〵響の編（カハ）を其中是又琴多のお莖るメへ〳〵　　綿（カミ）る帛（カハ）ル帛 カリニシ　　帛書（ヨーカ） ジョーカ

圃（ハタケ） ネヲト 屋 永塾物造築るいきりベイシ多松ねゆ〳〵ねばふそ

井（イド） コロゼツ コロリツ　　灶（ヘツイ） ヒトロ ベイテ 大元　　銀砂（ハカタ） 紙銭（ヨロシヌイ） ヨロシヌイナ

大そビインゲ我邦より用る所のめきそのもそ盤心

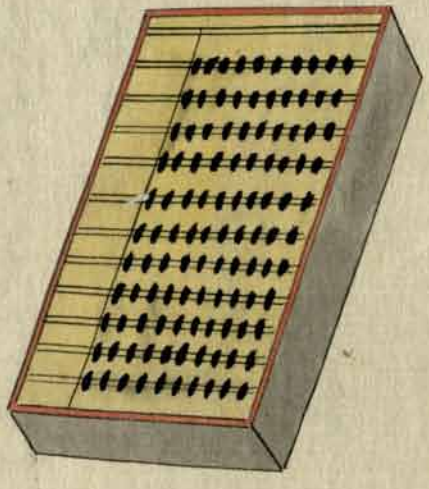
み仏るそ コシトイチ（ケ）ニテイナ ニつく双方と写（コ）る其四あそ

そそみ〳〵こそるあるそ骨骾（ホネノモ） カルメ 二十六枚 ハライカ（こ弦のるいふそ）

メッタリ 金ぶい銀〳〵用所る化そ面と校ふそる 并、

玉鈴（リンカダ） 等あそ　　型（モノ） 多（こそる字のまそ） の永清ね〳〵りふめと

十露盤（シッテャウ）



我国乃用ト雖棉乃遠キアリ雖モ多クアルヲ要ハ
ロツモアル物ノ数十ニアル

衣服織成飲食

衣服飲食ノ名各條ニ於テ
ルクハ言ニ出サズ

衣服 フラーテ　帽子 テレビソサ ウホラモアル　神 神ろんう オロカツ

袴 ホセス　木屐 モノトウク　織 イコルカ

羅針　カムパス

鈴　トリユシカ

小物入　スケテンコ

桶　カッーシカ

鳥煙盆　おもるごーりゴシ

蠟燭　シコゼイ　品ものを年期して作る職人の雑用とのこと

燭基　ボーシュウユシカ

瀧　ゆみゴリセウカ

煙管　ストーフ

おつゆつぎリョシカ

多桶　ウシャタ

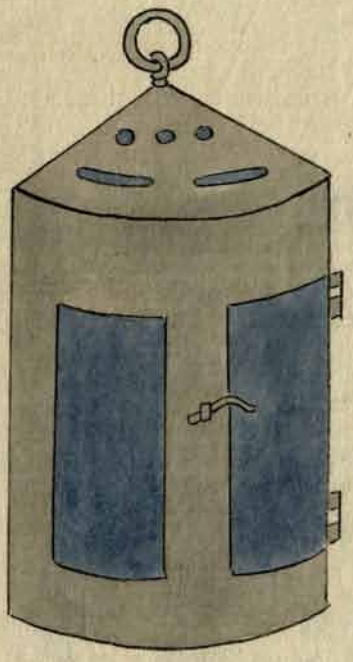
傘　名のない年寄上いキレニテとる

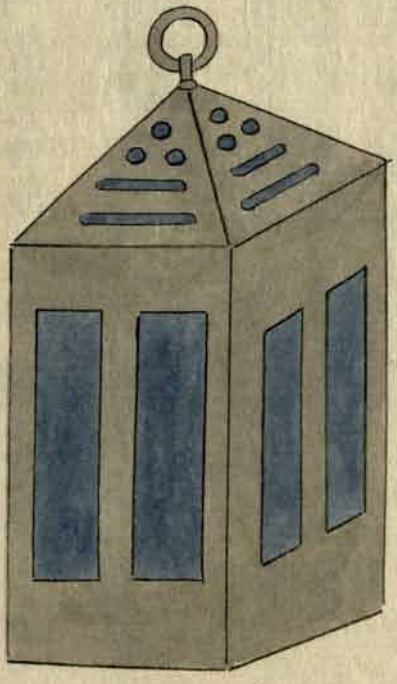
茶椀　ナヤーシカ

小椀　大ゆんこグトーフ

ちょこ　こつぷスククン

硝子　スデクロ





提燈（テウチン）ハナレ

ハナレ板敷ヲ敷仕切メ多クアリテ雨ヲ防ヲ

ヲナジ二柱アリ

帚（ホウキ）ニイカ

梯子（ハシゴ）ケレベン

牛皮

草袋（ワラブクロ）クニ

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM

風頭 ガストロ　　戒指 名忘　　結布 ウウコ

木綿 タバ　　綿布 ケタイカ　　綿絲 セウコ イーツケ

絲 チイツケ　　羅紗 リリノウ　　羊 ハランの毛糸こと(綿ようなこと)

羅脊板 ハイカ 羅紗などを着るときの後よりの品を

天鵞織 ウユンウユント　　絨羅紗 カラスナ リクノウ　　八絲 ニユス カヌハ

鞠 ソーロー　　菓子 ヒラニカ　　麦酒 クイナ

上好酒 オンツカ　　沙糖 サトハリ　　茶 チヤユ、テヤリ、

蕎餅 ケンブト 蕎麦より作るを丸くケンブトをうる

女酒 ユンニナのオンツカ 色赤く甘味あるをツンニ時代の酒おつ

焼酒 ケンブコ オンツカ　　煙草 タバコ

コーヒイ 水実飲食の部にいり　実蛇と称しべり

乾魚 ソリイノアバ　新鮮 シウイン 魚肉を称し煮焼ことをいう

牛酪 モロコ　酥 オ、クツス モロコシを煮て油

こアリ 佐孔のみを言のみる

朝飯 オビヤアタ　玄牌 バウジイ

粥 カーシヤ 麦蕎麦の粉にてつけ

言辞

草 クラウ　木 ビリワ　朝茶 サフタフガ

実 セーショー　青 セリヨノ　暮食 オ、シーナイ

赤 アシライ　白 ニアライ

蒼 スウユトシカ クウユトーコえ

黄 ユモン

黒 ケヨリノ ケヨリノイ

井 スワッカ

苦 コリカ同ー 辛ト

くるるーしとゐるなゐ
ケレブコソーリョーノしとゑ

無 ネ

始 サケケウ

短 コロッカ

前 ベリヨート

外 ナトウク

遠 タリヨーコ

浅 シヨーコ

見 スモテレル

酸 ケーースナ

鹹 ソーリョーノ おゐ鹹のとゑ髪ねこーブコ
ソーリョーノしとゑぴー

左 ライツ

終 シャバーシャ

廣 レーロコ

後 ナガケイ

上 ウエリホ

近 ヘレツコ

剛 ユウエルト

聞 ツチシウ

辛 ゴリク

有 エイシ

右 ボラウ

長 ドーウケ

狭 オンスコ

内 イツパ

下 ニースノ

深 ユルホーカ

柔 ミヤーコ

遅 トーケ

早 スコロ
強 チカレブコ
軽 子チョーシロウ
難 ムテシーウ
緩 子トーカ
臭(ワルクサイ) ドーハ
死 ホータル
偽 子ブラウタ
方 四 チャテレの方 隅
悪
滑澤(ツヤカヨイ) 子イシフ

多 モノラコ
弱 子ヨワケレブコ
稟 トスーイ
易(モノヤスイ) 子ムテシーフ
鋭 オトストロ
香 トーハ好キカ匂ヲ例ヘルヲトホロニヲイスあーを
ウカヲヒバドーハ子ホロシヨイト云
生
虚偽 ウクヨトシ
三角 シレオトゴロ
美麗 ベレクラスナ
糙涙(ツヤガワルイ) 子イシレラ

少子 モノラコ
重 チョーシロウ
薄 トーニシコ
緊 トーク
鈍 子オトストロ
臭 ブラウタ
田 コロコロ
好(ヨキ) ホロシヨイ
汚(ムカイ) シーロコ
泣 ブラカ

笑 スミヨッザ
大 ボリシヨ ボリシヨイ
低 ニースコ
知 ツナヨ
不直 子ブラニ
寤 スクル
客 コシテ 客来ることを又客ごしてよりしと云
諾 アイ アス
向方 ドラ
誰 クトウ
交合 将接ホウ接ニルヒャル詣按タイヨッチ 陰陽魂ヒシトサシロトシヤヒ消スサーフラル
肥 トストイ
小 ニーリシコ
勝 ウヨーゲラル
不知 子ッナヨ
寝 スワヒウ
忘 ザボール 不忘 ワスレストシラ 子ザボワイ
否 イヤタ 子ナタ
我 ミニヤア
尊君 ウヨ
主人 コシヤイナ
汝 テハヨ
私 ヤ 下賤ノ者ノ〜ノ
婚姻 スクツハ
疲 ソハヤ
高 ウヨ ウイ ツソーカ
負 ボーイケラル
正直 ビブラニ ミウスグ 又悪人ノ多キ世ニ云ヒシ事ヲ オスノウト云

伐セ サイメイ

不欲 ヲホッセヌ

書 ビッショウ

不直 ショウジキ 價をうけろといふ又 まけてくれねばオスマヒイとも

買 コビユウ

呑噬

諸ミ

叱

驚

作 オーセル

種ヘル サセル

借リタ サイシャク

行ケ シトバイ

讀 ゼタヨ

賞ツノボタリル オスマヒイとも

往来 ツデく

宗旨 ガツヨシ

忌 キリウビ

踊 ビッケリ

種時 カラシイ

欲 ホーッセヌ

待テ ボコゼイ

高直 ドーロケ

與ヘル ボタリー

色ミ アラツナ

力強キ ごんモノーコ

恥カシヒ ステツナ

又 オツビヤーテ

おを拵ふるをもお光旦種疫をばカラジイとも

（辛のまゝ）

家作 ストロイル
動 テレンユール
洗 洗フハモヨ 洗ハモヲ
薪 トロワ
焼 ゴヤーレイ
精進 ボーレナ
縫 セイ
抱 ルーゼー
痒 スゴッガ
オノ人ノ来タヨウナオ、スバオツコヨルトコロ
頭痛 ユノワボルノ
鼻血 イスコロフ 毛腿 イチヨウ 牙痛
払共 ナム
出ス テタイ
進物 コレテツガ
典當 ザワタラト
味 クコス
空腹 ゴールセン
沈 オワトヲル
罰 ゲライカ
熱病 ゴリヤテカ
呼 ゾウヲカ
浴 コバイ
材木 レース
煮 ククイ
美味 フコスホロレヨ 旨キ好ト云ヌ
食時分 バラ
教 オテウ
痛 ボルノ
疱瘡 オニスハ 疱瘡ハニカ 疱瘡ヲ発酒ヲカホ
強健 ケレブコ

下痢 ハラシイス ホリ　　鉄屑 名ふるそ　　唖 名ふるそ

癩病 名ふるそ 此者一人ふるそる　　病気 不快 子モゴ——

丁寧ニ云 ホットセイヤ　あるかふるり弁 ホツコンノニテボウゴクリヨ
御待後ヲ——礼御云 ボツコンノニテボウグガストイ
あるてこゝ論 あるふこそる まる
私ト 下それ モイボタレ ヤそれ忍子ホタルウ 此礼ニ行 ナツトロイヤ
何ヲ カコイ あるる
人ノ チヨロウヨイカト云ル ナゾワル 大小便ニ行ル
他ノ内ニ入ル色 ダラストイ 我カ内ニ此人ノ内——ツクリニト云
論——ふこそる論 云時ハ
久——く此月ニカゝルカモ タウノニヨウヨグリカコツレフニウヨ
あさばおまへない
同——ふる論下衆ノ カコツレナニ。テバイ テバイトいこおる
人ニふるい ト云程ノあるそ
こるる遠者ヲ テカコツニヨニ あるるも
ウヨカコウニヨニソグラ
ソクリハ学ぶる変様ト云ル論そる 客来るハコニテヘリニヨ

誰ゝ来る　クトウヘリショル　何ぞ　チョウ　客達などの時の外
何の用でムり候　チョツイズオリ　ご訪問をく云迄用
乾飯　オビヤダルニ　強く　オビヤダル
めしを　　　　　　　
こちらくれなさる　リデ　サゼ
なさる　　　こちら　座セ
酒あるか　ウイナビイ　沢山あるか　モノコクーレヤイ
茶碗のんでこぜれ　チヤヲ　クレヤイ
あるかあうれ　ウラテビイ　ビイハ　呑めるか
煙草のめよ　メバココレ　コレハ　吸るか　ホーーくこぜれ　ボーーコーレ
何でも出ーーまるれ　チヨワニボーートボコーレ　チヨワニハ　何と
でもなり
今日　今かい参へまれ　ショヨーーレニ　ホーーロヲヽ
寒く

あの人いつもテーたオンゴーレルれるくの
云通テテーゴーレ
あの人ら芝居ねるるいの等オンゴーレルスモテレルカメーシイ
見タ
てテーるとる神ヌスモテレルブーレル
とふるあつるふるつるカブワレボロシヨリ
るぜてふる名ボシトウセリゼッサ何で悪くる ボシトワ
オロヨカ るぜをるたる名ボシトウうハイスミョッザ
何ふーーー通ボシトトーテ
トニナヒト
行るく子オミノイチヨロウユイカ
利ロふ人オミノイチヨウユイカ
いとおーーいへーーツナ生るてあ名子トボーーメル
悪ーーふトーーニヨ悪ーーふ子トボーーメル

栗ーーくりる　トーテイ　個ーつ　個数ーボスフヨ

容姿ようし　カコウサイナ　その後のなのでいるし　子テバイオロカヨ

これは言うあるう　アイタ　モシナレ　セテウイヨ

これは　るう　おーういうある

はくくるある　モシナレセーーツイナ

追ーおれ思　子セシナレ　ゼイライニノ

火つきは身物よ　ニビセイイスカイ　同ーなる　ヒヲロブノ

行れの品　コトーーラ　う巻でいるし　子ニシニノツイ

つぎも思ーするも　ボチニ行程あうある　スーソト又

此名い行て申ます　アイタカキナゾソヨ

是行ってあぞる　アイタチョウ　まいこるし　ドーーロテ

行とるをる　チヨツゼライ　行物をつる　チヨワスモデ

レル　小生ヲ（うた）ヨビ――シ子　繁ト称シ（ボニタ）

右ニ倣ヒ一編ノ彼邦語学ノ（が）一ヲ――ヲ

漂流シ茫洋遠ク（おい）彼土ヲ知ラヌヲモヲ

多クノ――又ヲ忘ヒヲモ多ヲ恥ルヲト彼人ト雑話

セル等ハ一ノヲヲモ用ヲ弁ヘ得ハ特ニ其

様ヲ知レヲモ若シ彼ノ多ヲ知ヲ我ヲヲ年

ニ及ヘル変化ヲ改ヲヘ回礼ヲヲモ忘失

スルヲヲヲ――又国ノ俗民ヲリヲヨ

深海ヘ――遠慮スルヲヲ思フヲノハ先ヲ語ノヲ

務ムルヲヲ唯其ヲ詩ヲ問ヲヘ――ヲヘ多ヲ

ヲノ如ク漫ニ出集ノ他日ヲ如ヘ九ヲ如ク新製

やうな谷川其複為條諸生次第紛乱やうも
余多あるへ――是唯其邦一語の一編物紀事
ることなり――義貞ら紀事の日此書語言
一編い補足話和文終日のこと未よこと
くきれい彼等ら心服の物語も得と忽ちの修よ
とりれい聞語をも記――あ原ちと――なもあ
へきゃなよことくく正語といも――かるきるへ――
其為語のかるへ――よ云いおえと記せるおい此年
仔せのこみよ大高原えを太まるこの彼地よ漂流
――記記やる学生物書へ――大うと此男彼玉の文言
とも多くも来るものるれば多くい遠いもふ

かつ斎そうや

環海異聞巻之八

ALASKA HISTORICAL
LIBRARY AND MUSEUM